

6 月 19 日 年間第 12 主日

自分を捨てる

ルカによる福音書 9 章 18～24 節

¹⁸ イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちは共にいた。そこでイエスは、「群衆は、わたしのことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。¹⁹ 弟子たちは答えた。「『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『だれか昔の預言者が生き返ったのだ』と言う人もいます。」²⁰ イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「神からのメシアです。」

²¹ イエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じて、²² 次のように言われた。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」²³ それから、イエスは皆に言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。²⁴ 自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである。」

他の朗読：ゼカリヤ 12:10, 11, 13:1 詩編 63:2～6, 8, 9 ガラテヤ 3:26～29

Lectio …読む

この箇所においてイエスは、自分はメシアであることを弟子たちに明らかにします。しかし、このことが公に示されることはまだ望んでいません。またイエスは、ご自身が彼らが期待しているメシアとは非常に異なるものだということを、彼らに見せ始めます。事実、イエスは誰よりも歓迎すべき宗教指導者たちによって拒絶されるのです。さらに衝撃的なことに、やがて殺されるのです。しかし三日目に彼は生き返って復活するのです。

そしてイエスは、弟子になるために必要な代価について話します。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」(23 節) イエスは、弟子たちを厳しい現実と直面させます。キリスト者であることは、困難や苦しみが伴う場合でさえ、自分自身の計画よりも神に従う選択を日々要求されます。だから、イエスの弟子になりたい者は、信仰のために命を捧げる覚悟をしなければならないのです。

弟子たちにとってこれは恐ろしい提案であったに違いありません。しかしイエスは始めに言ったことを次に述べたことによって説明しています。「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである」。つまり、最終的にイエスに従うことが自分の命を救うための唯一の手段であるということにおいて、犠牲と苦しみはその過程の要の部分なのです。

これらほんの数行の言葉は、弟子たちを驚かせたに違いありません。イエスは真にメシアである一方で、ユダヤ人をローマ帝国の抑圧者から解放し驚くべき勝利を得ることよりもむしろ殺されることを選ぶと言うのです。弟子たちには実に衝撃的なものであったでしょう。

また弟子たちは自分たちが何に巻き込まれたのか、疑念を抱いたことでしょう。旧約聖書の多くで彼らは、神は正しい人を祝福し、神に不従順な者は苦しみを味わうと教わりました。イエスに従うことは、彼らをどこへ導くのでしょうか。

イエスに従うためには、個人的にどんな結果や犠牲を払うことになっても、神のみ旨と神の国を優先することが必要なのです。

Meditatio …黙想する

今日、そして歴史を通じて、人々はイエスについてさまざまな考えを持っています。あなたはイエスをどのような方だと思っていますか。

イエスは苦しむメシア像と苦しむ弟子の姿をどのように関連させているのか、考えてみましょう。あなたは自分の人生の苦しみにどのように答えるでしょうか。

あなたにとって命を捨てるということ、日々自分の十字架を背負うということは、現実的にどのような意味があるのでしょうか。あなたの人生の中のどのような時に、最も自分の望みを捨て神の望みを行うことが難しいと感じますか。

Oratio …祈る

今日の答唱詩編を何度も通して読んでみましょう。これらの箇所はあなたの感じていることを表していますか。神と正直な対話をするために、これらを用いましょう。どのことばが一番心に響きますか。もしかしたら神は、それについて祈ることを望んでいるかもしれません。

Contemplatio …観想する

今週の間毎日、しばらくの間座って十字架を観想してみましょう。十字架が象徴しているすべてのことについて、そしてあなたの毎日にとってどれほど大切なのか、ということについて考えてみてください。イエスの死と復活で何が変わるでしょうか。